

太平洋に浮かぶ生物の楽園？

パラオの豊かなサンゴ礁の未来を守れ！

サンゴ礁島嶼系における気候変動による危機とその対策



日時：平成27年1月26日（月）

15:00～17:30

場所：琉球大学法文学部

新棟215教室

SATREPS(地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム)とは、科学技術振興機構(JST)と国際協力機構(JICA)が、日本と開発途上国の研究者が共同で行う研究・人材育成を支援する、3～5年間のプログラムです。

現在、豊かなサンゴ礁生態系を有する太平洋のパラオを舞台に、グローバルかつローカルな視点で、環境モニタリング、サンゴ礁島嶼生態系への影響評価、社会科学的評価、生物多様性への影響評価等を進めています。これらの研究成果を基に、持続可能な島嶼社会システムのあり方を、パラオ共和国政府に提言することを最終目的としています。この講演では、2013年に開始されたパラオにおける本プロジェクトの研究や国際協力の進捗状況を報告します。

発表者【テーマ】

- ★中村 崇（プログラムリーダー・理学部 海洋自然学科生物系 講師）
【パラオにおける浅海域サンゴ群集とその重要性】
- ★ジェームス・ティビス・ライマー（理学部 海洋自然学科生物系 准教授）
【パラオのサンゴ礁における無脊椎動物の多様性に関する研究】
- ★栗原 晴子（理学部 海洋自然学科 生物系 助教）
【パラオ沿岸の多様な海洋環境とそこに差し迫る気候変動】
- ★土屋 誠（理学部 海洋自然学科生物系 名誉教授）
【生態系サービスの学際的解析】
- ★藤田 陽子（国際沖縄研究所教授）
【自然環境が支える小島嶼国の経済】
- ★宮国 薫子（観光産業科学部 産業経営学科 講師）
【パラオにおける観光の現状と課題-持続可能な観光への取組】
- ★木村 匡（一般財団法人 自然環境研究センター 上席研究員）
【生物多様性保全におけるパラオのチャレンジ】



琉大21世紀フォーラム ACCESS MAP

交通機関

高速バス・モノレールで琉球大学へ

空港▶琉球大学

■ 高速バス 1時間に1本程度/所要時間:45分

111 番線

琉球バス・沖縄バス・那覇バス
東陽バスの4社が交互運行

113 123 番線

琉球バス

■経路:空港→沖縄自動車道→琉大入口下車
(琉大入口にて下車、琉大北口まで徒歩で約4分)

■ 沖縄都市モノレール



路線バスで琉球大学へ

バスターミナル▶琉球大学

■ 路線バス 各20~40分に1本程度/所要時間:40~50分

琉大東口・北口方面 **97** 番線 琉球バス

■経路:バスターミナル→国薬通り(牧志)→備保(首里)
→琉大附属病院→琉大東口→琉大北口(終点)

琉大北口方面 **98** 番線 琉球バス

■経路:バスターミナル→国薬通り(牧志)→バイパス→
真栄原→沖国大前→琉大北口(終点)

**琉球大学法文学部
新棟2階 215教室**



琉球大学 千原キャンパス



今後のフォーラム予定：未定

お問い合わせ:琉球大学総合企画戦略部地域連携推進課
TEL:098-895-8031(事前登録不要)